

# ニッセン 投信情報

## みずほ信託銀とファンドアドミ提供

### 日本資産運用基盤

日本資産運用基盤グループは7月11日、子会社のJAMPファンド・プロセス・イノベーションがみずほ信託銀行と業務提携契約を締結し、同行と共同で、日本で初めての投資信託委託会社向け総合支援型ファンドアドミニストレーションサービスの提供を開始したことを公表した。

これまで、投資信託ビジネスに新規参入を目指す企業にとって、運用や商品開発業務以外の準備作業やミドル・バックオフィス事務等の経常実務、専門人材採用やシステム投資等が参入の障壁になってきた。同サービスでは、ミドル・バックオフィス業務の一部受託にとどまらず、事業の立ち上げから一括して支援。各投資信託委託会社が運用や商品開発等に専念できる環境を実現する。各種ミドル・バック機能の提供では、必要に応じて都度課金していくサブスクリプション方式を導入。同社は本事業で東京都から新興資産運用会社向け補助事業の受託者認定も受けているため、サービス利用者は都の認定を条件に年700万円を上限とする補助金を受けることが可能で、新規参入コストを従来から大幅に圧縮できる。

第1号案件として7月1日にIFA(独立系ファイナンシャル・アドバイザー)会社の生活デザインとサービス提供で合意。同社は2020年春のファンド運用開始を目指す。また、既に外資系運用会社やIFA会社等から10社を超える問い合わせが相次いでおり、日本資産運用基盤グループの大原啓一社長は、「マーケットの拡大に手ごたえを感じている」としている。